

学びあい、わかりあう

mingle

みんぐる

Vol.36
2011
12月号



多文化ユースフェスタin青山での子ども達とボランティア

多文化ユースフェスタin青山	1
キャリアウィーク！	2
たぶんかフリースクールの毎日	4
多文化VOICE	6
イチオシ！&インターの声	7
最近の活動報告	8

たぶんかきょうせい

とうきょう

多文化共生センター東京とは…

たぶんかきょうせい とうきょう はんしんあわじだいしんさい さい がいこくじんひさいしゃ じょうほううていきょう おこな たぶんかきょうせい
多文化共生センター東京は、阪神淡路大震災の際に外国人被災者に情報提供を行った「多文化共生センター」
 の東京事務所として2001年4月に開設。2006年4月には多文化共生センター東京として独立し、同年5月にはNPO法人として認証されました。外国にルーツを持つ子どもたちへの教育事業を中心に、子育て支援等のファミリーサポート事業、人材育成や情報提供など多文化共生を広める事業を行っています。

私たちの理念

きほんできじんけん そんちゅう
■基本的人権の尊重…「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公正を是正する。

しゃかい ちから じぶん ふんか ほんご きょうじょ かんきょう あんしん じぶん
■少数者への力づけ…自分の文化や言語を享受できる環境づくりや、安心して自分らしくいられる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えられるようサポートする。

たすくしゃ たすくしゃ にほんじん しょうすうしゃ じぶんじしん ささ
■社会へのアプローチ…多数者である「日本人」が少数者の状況や、多文化共生社会の意味・大切さ（大変さ・楽しさ）を理解し、「日本人」・日本社会自身を変えていく。

活動内容

<外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業>



たぶんかフリースクール

がいこく まに まいにちかよ にほんご きょうか
 外国から来た子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強する学び場を提供しています。火曜日～金曜日
 午前・外国から荒川区内に来たばかりの中学生
 昼…15歳を超えて来日し、日本の中学校に入れず、どこにも学ぶ場のない子どもたち
 夜…昼間は小・中学校に通う子どもたち

教育に関する調査活動

とうきょう く がいこく あ こ かん きょういくじっしたいじょうさ おこな
 東京に暮らす外国にルーツを持つ子どもたちに関する教育実態調査を行っています。

教育・進学相談

しんがく へんにゅう きょういく かん そうだん
 進学・編入など教育に関する相談に、電話や来所で対応しています。また「日本語を母語とする親子のための高校進学ガイダンス」を、多言語（6言語）で、多団体と実行委員会形式で開催しています。

学習支援・子どもプロジェクト

がくしゅうし えん こ
 主に高校進学を目指す子どもたちへボランティアベースで教科や日本語の学習支援と、アクティビティ等による居場所づくりを行っています。
 ■活動日：毎週土曜日3:30～5:30

<外国人の家族と子育て支援事業>



親子日本語クラス

がいこくじん かそく こそだ しえんじきょう
 小学生以下の子どもと外国から来た親を対象に、生活に必要な会話や読み書きをボランティアと一緒に学ぶ教室を開いています。

かつどうび まいしゃうど ようび
 ■活動日：毎週土曜日 1:00～3:00

多文化共生のための人材育成

かん けんしゅう こうしきせん
 多文化共生に関する研修への講師派遣や、活動に関わるボランティアやフリースクール講師等を対象とした研修会を行っています。

情報提供（広報チーム）

ほんし ねん かい かいいん たぶんか
 本誌「mingle」(年4回)、会員へのメールニュース「多文化だより」(月1回)、メールマガジン「多文化News from Tokyo」(月1回)等を発行しています。■活動日：随時

ボランティア募集中！（裏表紙へ）

げんざい こ おやこ にほんご こうこう
 現在、子どもプロジェクト・親子日本語クラス・広報チームでは特にボランティアが不足しています！

多文化ユース・フェスタ2011 in 青山

11月13日 「多文化ユース・フェスタ2011 in 青山」が盛大に行われました。毎年、開催されているこのユースフェスタ、今年は全国ボランティアフェスティバルの分科会のひとつとして表参道の東京ウィメンズプラザでの開催で、参加者、ゲスト、ボランティアの方々があわせて221名が集まりました。9つのチームの、外国にルーツのある子どもたちが自主制作映画、歌、ダンスなどを披露。多文化共生センター東京からは、フィリピンにルーツのある卒業生のバンドと、中国、フィリピン、ミャンマーというまさに当センターを代表するようなチームが歌とダンスでステージにあがりました。また、本イベントの開催にご協力頂いたUBSと、東京ボランティア・市民活動センターによる「多様化する子供たちの架け橋プロジェクト（BBCプロジェクト）」の一員としてたぶんかフリースクールの現役生が参加。「小さな世界」のハンドベル、そして手話をまじえての合唱で会場がひとつになりました。子ども達のパフォーマンスの後は、プロミュージシャンのGeneZのライブ。メンバーの二人は、共に外国にルーツのあるダブルで、小学生のときに来日したという、まさに子ども達の先輩です。お二人の素晴らしいパフォーマンスに会場は熱狂。最後には子ども達がステージの前に出て踊るという場面もみられました。さらに、特別審査委員長としてタレントの早見優さんが子ども達のパフォーマンスを審査してくださいました。早見優さんはいわゆる帰国子女で、ブログにもイベントの紹介とともに多文化や多様性の素晴らしさについて書いてくださいました。午後の部は、GeneZによるワークショップが行われました。子ども達が言葉を選び、みんなで歌詞を作り、卒業生のギター伴奏にあわせ合唱。 GeneZのお二人の素晴らしいリードでまさしくこのフェスタのテーマソングといえそうな歌が完成。どの子も熱心に取り組み、素晴らしい笑顔をみせていました。

実は、私も多文化卒業生のバンドにベースとして参加しました。本番1ヶ月前になんでもメンバーが決まらない、練習も時間通りにメンバーが集まらないなど、最初は、ステージにたてないのでないかと思ったぐらいでした。しかし、練習がすすむにつれ、メンバー達は自動的に練習をリード。当日は、突然ダンスやコーラスを入れるなど、驚きの連続でした。子ども達の明るさ、躊躇なく人前で歌やダンスを披露できることに感動するとともに私自身多くのことを学んだ気がします。外国にルーツのある子どもたちにもっとこのようなチャンスを提供できる場があればと強く思いました。以下は午後のワークショップで完成させた歌の歌詞です。

HARMONY

新たな場所 TOKYO

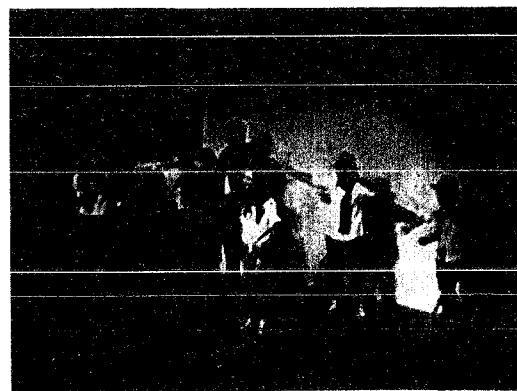
共に学ぶ こどもたちの多文化のヴォイス

言葉が通じない。けど心がつながっている

海を越え外国との架け橋

これから大人になる子どもたちの笑顔の輪支えていくう

UNDER THE SAME SKY



多文化ユース・フェスタ2011 in 青山

～多様なことは楽しいこと！ 素敵なこと！～

共催 多文化共生センター東京、東京ボランティア・市民活動センター、UBS

(*本フェスタは、第20回全国ボランティアフェスティバルTOKYOの分科会として開催)

キャリアウィーク ~進路・将来・夢について考える一週間~

たぶんかフリースクール本校では11月15日からの1週間、GAP財団の助成によるキャリア教育プログラムの一環としてキャリアウィークと題し、2つのイベントを行いました。16日にはギャップジャパンの店舗での職場体験、17日にはアルファビート社のご協力にて、ドリームツリーというワークシートを使って自分の好きなこと、将来、夢などを考える特別授業を行いました。

11月15日 職場体験@ギャップジャパン

今年度で2回目となる職業体験では、22名の生徒がギャップジャパンの4つの店舗(GAP銀座店・原宿店・渋谷店・BANANA REPUBLIC 六本木ヒルズ店)で、スタッフの方々のご協力のもと体験をさせて頂きました。お店に着くとスタッフの方々に温かく迎えて頂き、自己紹介から仕事概要や、商品の配置についてなど教わりました。前年度は参加者が限定され、バックヤード体験のみだったのですが、今年度は生徒全員が参加出来、店頭での体験もさせて欲しいという希望を受け入れて頂き、今回は希望者16人が店頭体験、6人がバックヤード体験をさせて頂きました。店頭体験では、お客様の迎え方、店頭の洋服のたたみ方などを、バックヤード体験では、洋服のアイロン掛け、サイズごとの仕分けなど在庫管理業務を教わりました。

来日間もない生徒も何人かいて、意思疎通ができるか不安もあったのですが、作業を始めると、みんな真剣そのものでした。したいに手つきが慣れてきて「このまま働きたい。」と言った生徒もいました。また、お客様に「こんにちは」と言うと、「こんにちは」と答えてくれた、という喜びの感想もありました。

約2時間の体験を終え、フリースクールに戻り、GAPが大切にしている4つのキーワード「Threads」(Friendly, Helpful, Quick, Knowledge)についてグループごとに、それそれがどんな発見をしたのか話し合い、模造紙に書いて発表しました。

普段の授業では、体験したことを日本語で表現し、たくさんの人の前で発表するような機会はなかなかないので、うまく話せるだろうかと心配でしたが、グループの仲間と助け合いながら、新聞紙を使って洋服のたたみ方を説明したり、社員の方々に教えてもらったことを話している生徒の姿に、ひとりひとりの成長を感じました。

フリースクールは通常13時から始まるので、昼夜逆転生活になりがちな生徒もいるのですが、この日は8時30分に集合し、通勤電車で都心に向かい、緊張感のある職場で、一社会人として過ごさせてもらい、生徒自身もとても良い経験をさせてもらったという感想が多くみられました。他にも、「スタッフの方々はお客様だけでなく、自分たちにも4つのThreadsのように接して下さった」という感想もありました。

フリースクールの生徒の直前の目標は高校に入ることですが、この職場体験で「どんな仕事をしている人がいるのか」「社会の一員になるとはどういうことなのか」という事を知り、その先、「自分は何をしたいのか」という将来のビジョンを描く上で、とてもいい経験になりました。生徒たちの将来に、この体験がどこかで生かされることと思います。各店舗のスタッフの皆様、企画から当日の進行までご協力頂いたギャップジャパンの皆様、ありがとうございました。



発表の様子

生徒の感想

在中国の時、从未有过如此体验，感谢你们给我们这样一个体验的机会。在此之前，我一直认为工作是一件很难的事情，一直认为自己什么都做不好，是店员们的辅导与鼓励唤醒了我的信心，让我对未来寄予了无限兴趣与憧憬。

中国ではこのような体験はしたことなく、今回このような体験をさせて頂きとても感謝しています。私は仕事とはとても難しいことだと考えていました。自分は何をやっても上手くいかないと思っていたが、お店のスタッフの親切な指導とサポートが私に自信を与えてくれました。おかげで、未来が希望や憧れでいっぱい満ちていると感じました。

11月17日 ドリームツリー



各地の小中高校でキャリアデザインの出張授業を実施しているアルファビート社の方に来校いただき、将来の夢を考える授業を行いました。まず、日本語学校に勤務されている先生（中国人）、海外で働き今は日本で起業されている（日本人）の2人のゲストティーチャーのお話しを聞きました。ゲストティーチャーは、『小さい時から、親の仕事の関係で様々な国で生活した。日本に帰ってから、日本語を話すことや漢字の読み書きで苦労した。でも、あきらめないで頑張ればできる。皆さんは、母語と日本語の二つの言語が話せる強さを生かしてほしい。』など、自らの母国と外国での体験を踏まえた話をして頂きました。

ゲストティーチャーの話を聞いたあと、フリースクールの先生や当日参加された千葉大の学生の方たちと話しながら、自分の今まで体験したこと、支えてくれた人、自分の夢などをドリームツリーというワークシートに書き込みました。来日間もない生徒は、英語や中国語などで記入しました。

=ドリームツリーから=

私の良さ

- * 大変なことがあっても負けないで頑張る！
- * 小さい子が好きで一緒に遊ぶこと
- * 親と先生たちを尊敬する。
- * よく笑う。笑顔でいる。
- * 妹の面倒をみている。
- * スペイン語が得意。

なれたらいいな・あこがれ

- * 知らない人と友達になりたい。
- * 日本語が上手になりたい。
- * 飛鳥高校に入学する。
- * 日本の高校に入りたい。
- * 18歳になったら仕事をする。
- * 海外で働く仕事がしたい。

したいこと・あげたいこと

- * 母さんのために家を買ってあげたい。
- * あげたいのは物でなく優しさ
- * 新しい家を買ってあげたい。
- * 友達にわからないことを教える。

できたらいいな・あったらいな

- * 韓国に帰るチケット
- * 勉強のない世界
- * 英語が話せるようになりたい。
- * 優しい彼女ができたらいいな。
- * 世界中を旅行できたらいいな。

私の夢

- * コピーライター
- * 23歳になって結婚して、子ども2人で大きな家に住みたい。
- * ツアーコンダクター * 作詞家
- * フライトアテンダント * イラスト레이ター
- * 高校卒業して、アルバイトで200万を貯めて留学する。
- * まだ、考え中

2時間の授業の最後に、自分のドリームツリーを発表しました。

韓国のAさんは、日本へ来た時のことや絵が大好きでイラスト레이ターの夢を、中国のB君は、日本語と中国語をまじえて立派な大人になりたいことを話してくれました。また、ベトナム、ネパールのD君、C君はそれぞれの国の言葉で自分の夢を語ってくれました。たくさんの人の前で話すことは、大変だったと思いますが、伝えようとする気持ちをいっぱい感じました。

時間は短かったですが、普段気付かない自分を振り返り考える機会になったと思います。これから続していく高校入学までの時間の中で、否応なく将来を見つめざるを得ない子どもたちです。自分自身の良さを大切にして夢への一歩を切り開いてほしいと思いました。外国から来た子どもたちに合わせたプログラム作りからご協力頂いたアルファビート社様、企画からご協力頂き、アルファビート社をご紹介頂いたACE（企業教育研究会）様、本当にありがとうございました。

まいにち たぶんかフリースクールの毎日

ほんこう 本校

たぶんか ほんこう いま ひる よる あ にん こ まいにち げんき べんきょう
多文化フリースクール本校では今、昼のクラスと夜のクラスと合わせて35人の子どもたちが毎日、元気に勉強しています。

ひる がつ こうこうじゅけん む じゅぎょう じかん なが がつ
昼のクラスは11月から高校受験に向けて、授業の時間が長くなりました。10月までは13:00から16:20

にほんご じかん えいご すうがく じかんべんきょう がつ にほんご べんきょう じゅけん
まで日本語を2時間、英語・数学を1時間勉強していました。10月までは日本語をたくさん勉強していましたが、受験

えいご すうがく べんきょう がつ えいご すうがく じかん ふ こ
のために、英語や数学も勉強しなければなりませんから、11月からは英語や数学の時間を増やしました。子どもたちは

にほんご ぶん すうがく えいご ぶんべんきょう
13:00から16:50まで日本語を100分、数学・英語を100分勉強しています。

がつ たかにん せんせい こうこう い こうこう こうかく
10月、フリースクールの生徒たちは担任の先生とどんな高校へ行きたいか、高校に合格するためにどうしたらいいか

そうだん こうこう こうかいじゅぎょう せつめいかい い こうこう けんがく い こうこう じゅぎょう
相談しました。それから、高校の公開授業や、説明会へも行きました。高校へ見学に行って、高校の授業がとても

むずか こ こうこう じゅぎょう たの はや こうこう はい こ はや こうこう
難しくて、びっくりしている子もいました。高校の授業が楽しそうで、早く高校に入りたいという子もいました。早く高校

せいふく き こ せいと こうこう じゅぎょう せいふく み せんせい はなし き
の制服が着たいという子もいました。フリースクールの生徒たちは高校の授業や制服を見たり、先生の話を聞いたりして、日本の高校がどんなところかわかったようです。

がつ にち にち しゅうかん じぶん しょうらい かんが じゅぎょう みせ い みせ ひと しごと
11月15日から18日の1週間は自分の将来について考える授業をしました。お店へ行って、お店の人ができる仕事を

み しごと なに たいせつ かんが じぶん ゆめ しょうらい ひと
しているか見たり、仕事をするとき、何が大切か考えたりしました。それから、自分の夢や将来どんな人になりたい

かんが がつ じゅぎょう じかん なが べんきょう たいへん こ じぶん い こうこう
を考えました。11月から授業の時間が長くなって、勉強も大変になりましたが、子どもたちは自分の行きたい高校を

み じぶん しょうらい かんが まえ べんきょう き も つよ
見たり、自分の将来を考えたりしたので、前よりももっと勉強をする気持ちが強くなりました。

がつ めんせつ さくぶん じゅぎょう はじ じゅけん べんきょう たいへん たぶんか
12月からは面接や作文の授業が始まります。受験のために勉強はどんどん大変になりますが、多文化フリースクールの生徒たちがみんな自分の行きたい高校へ行けるように子どもたち、先生、スタッフみんなでがんばります。

新宿校

しんじゅくこう ひる めい よる めい せいと べんきょう
新宿校では、昼14名、夜3名の生徒が勉強しています。

がつ もぎ ら
11月には、はじめての模擬テストを受けました。

べんきょう せいと にほんじん ちゅうがくせい かいじょう い
いつもはたぶんかフリースクールでだけ勉強している生徒たちは、日本人の中学生がたくさんいる会場に行って、すこし緊張したようです。

もぎしけん きょうか ほこく べんきょう にほんご と えいご すうがく ちが こくご
模擬試験は5教科。母国でも勉強したことがあり、日本語がよくわからなくてもなんとか解ける英語や数学と違い、国語

しゃかい りか むす かんが てんたい てんすう と こ
や社会や理科は、とても難しいです。それでもあきらめることなく考えて、20点台の点数を取った子もいました。

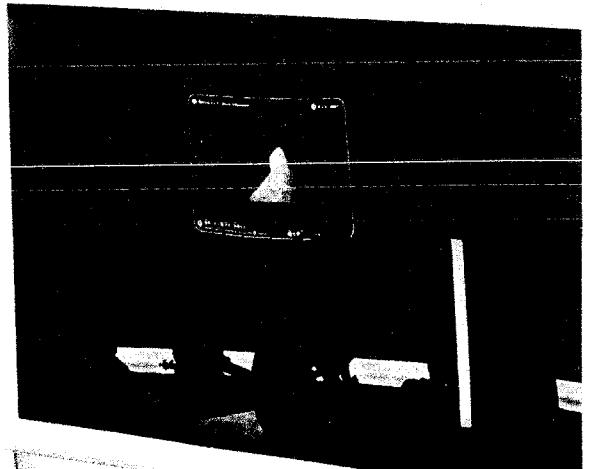
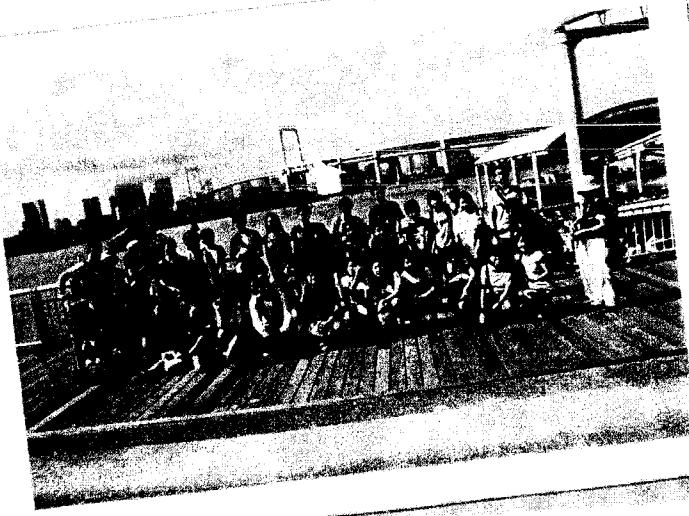
けっか あたま かか しけん ふんいき なれ べんきょう き も
結果にはみんな頭を抱えていましたが、試験の雰囲気にも慣れ、勉強しなければ！という気持ちになったようです。

しゃかいけんがく 社会見学に行ってきました！

あつ のこ 9がつ 1了ち
まだまた暑さが残る9月17日、たぶんかフリースクールでは、UBS様のご支援により、校外学習を行いました。
いきさき だいば
行先はお台場にあるパナソニックセンターの「リスピア」で、科学や数学の面白さや最先端技術を体験した後、
すいじょう の とうきょう
水上バスに乗って東京の街並みを見学し、最後は浅草の浅草寺でみんなで高校合格を祈願しました。
えんそく ようす か せいと さくぶん
遠足の様子を書いた生徒の作文です。

せんしゅう どようび せんせいたち がくせい いつしょ えんそく い おおく ほ えき しんばし
先週の土曜日は先生達と学生と一緒に遠足に行きました。大久保の駅から新橋まで電車で行きました。新橋からお台場までゆりかもめで行きました。私達はパナソニックセンターの中で数学の問題をやりました。ここは科学の発達がわかる場所です。すごくおもしろかったです。

つぎ だいば ぶん ある てんき あつ だいば すいじょう
次は台場まで20分くらい歩きました。天気は暑かったです。台場で水上バスに乗りました。船の中で音楽を聞いたり友達と話したり寝たりしました、また船の人は景色を説明してくれました。私はいろんな橋や高いビルを見ました。今も一番覚えているのは40年前できた橋で歴史もありました。それは古い橋です。
おぼ ねんまえ はし れきし ふる はし
最後は浅草へ行きました。浅草でお寺を見ました。古くて立派な店もありました。
さいご あさくさ い あさくさ てら み ふる りっぱ みせ
東京と違う感じだと思います。京都と奈良と似ている古い町です。



インターンを卒業するにあたり

皆様、こんにちは。

去年の9月から学生インターンとして事務局や「たぶんかフリースクール」でアシスタントをさせていただきました。

このたび就職するにあたり、9月で学生インターンを卒業しました。これからはフリースクールに顔を出せなくなってしまいますが、ボランティアとしてこれからも多文化共生センター東京に寄り添って新たな関係を築いていくつもりです。

インターンを始めた当初は、フリースクールで英語や数学の授業のアシスタントをしていました。夜の授業を持たせていただいたとき、子どもが遅刻や欠席をしてしまうことがあり悩みました。何が問題なのかわからず、他の先生に相談し、いろんな議論をしていくうちに、私が受験までの時間がないことに焦り、一度の授業でたくさんの内容を詰め込みすぎたのが原因だと分かりました。それからは授業の内容を子どものスピードにあわせて、褒める機会を多くしました。その結果、子どもが遅刻や欠席することがほとんどなくなり、楽しく授業を受けるようになりました。

また事務局のアシスタントとして、書類の翻訳やメール、電話の問い合わせへの対応などを体験させていただきました。エクセルやワードを使う機会が多くあり、私自身の勉強にもなり、少しずつ作業が早くなるのを自分でも感じることができました。

他の団体との連絡係も務めさせていただきましたが、連絡をしなければならない事としなくても良い事の見分けが出来ず、最後まで課題が残ってしまいましたが、これから働く会社ができるようになりたいと思います。

この一年間を振り返ってみると、連絡や時間管理、ケアレスミスなど反省する点が多くあり、「たぶんかフリースクール」でアシスタントをすることによって、これら自分の至らないところに気が付くことができました。

これから働いていく上で自分を磨きながら、もっと人の役に立つ仕事ができる人になりたいと思います。そして将来、たぶんかフリースクールに恩返しをしたいと考えています。

今まで私を育ってくれた皆様に、本当に心から感謝しております。たぶんかフリースクールは、私にとって最初に仕事をして、いろいろなところを学び、成長してきた大切な場所です。

このたび、企業に就職するという道を選びましたが、自分を厳しい環境に置き修行し、諦めずに頑張りたいと思います。

イチオシ!

ニッポンに生きる 在日外国人は今

著者：共同通信社取材班

発行：現代人文社（1600円+税）

2010年末の日本の外国人登録数は約213万人、法務省の推計では、非正規滞在者がさらに約7万8千人。これだけ多くの外国人が日本で生活し、また、経済連携協定（EPA）による看護師等の受け入れや、外国人研修・技能実習制度、第三国定住による難民の受け入れなど、外国人の受け入れに関する話題はメディアでも多く取り上げられているにもかかわらず、日本の多くの人は隣人である外国人の実態についてあまりにも知らないのではないだろうか。

今回イチオシする本書では、死線をさまで難民として来日したカンボジア人男性、観光ビザの期限が切れた後も22年以上日本で暮らし続けているパキスタン人男性、同胞ブラジル人を支援する日系ブラジル人の母娘など、外国にルーツを持つ人々だけでなく、工場存続のために研修・実習生の「労働力」に頼らざるを得ない工場経営者、外国人向け不動産会社の経営者、フィリピン人女性と偽装結婚した日本人男性など、外国人と関わる

日本人にもスポットを当て、それぞれの境遇、気持ちなどが描かれている。

どの話も考えさせられるものばかりで、外国人当事者、雇用者、支援者、元行政担当者など30人以上の様々な立場の話が納められている点においても興味深い。また、共生への提言として、日本社会が在日外国人にどのように向き合っていくか、専門家、当事者からの聞き取りで締めくくられており、日本の外国人受け入れにおける問題点について理解を深めることができる。

海外からは、外国人に冷たい社会と言われる日本だが、本書のような本を日本の高校生や大学生に読んでもらいたいと思わせる一冊である。

ボランティア

の

ルはまだなくて、基本は土曜日だけで、その中の受験や中学校の勉強へのサポートでした。支援できる人数も少なかったです。

それから7年経って、「多文化」はどんどん大きくなって、いろんな国の子どもが支援受けられるようになって、支援できる分野が広くなっています。

今後は卒業生としても「多文化」で支援を受けている子どもたちをサポートしていきたいです、そして「多文化」の輪を広げていきたいです。

今年10月からアシスタントとして毎週木曜日と金曜日の午後から、多文化共生センター東京で勤務することになりました。いつもボランティアとして土曜日の親子日本語クラスか子どもプロジェクトに関わって来ましたが、これからは一スタッフとして平日の教室に関わっていきたいと思います。

僕は7年前から「多文化」で勉強して高校受験をし、無事高校に受かりました。当時の「多文化」は、まだ小さかったです。教会の屋根裏部屋を借りて7、8人が入るといっぱいになる事務所、教室は教会のホールを借りて授業を行っていました。当時、たぶんかフリースクー

声



さいきんかつどうほうこく

最近の活動報告

おやこ 親子プロジェクト

親子日本語クラスでは、秋に入り、子どもクラスに参加する小学生が増えました。しかも全員男子！元気いっぱい教室を走り回っています。最近は中国出身の子どもが多くいたため、中国語で話す声も教室に響きますが、クラスにはネパール出身の子どもやフィリピンの子どもも参加しています。違う国の出身の子ども同士が、わからないところは日本語で助け合ってほほえましい姿もみられ、ほのぼのとした雰囲気を感じることができました。

前半は子ども一人ひとりにボランティアがつき、別々の学習を行いますが、後半はみんなで一緒に勉強します。たとえば、四コマの絵を見て、ストーリーを子どもが作る「四コマ漫画」、ひとつの話を四行で作文する「四行作文」（はじめに」「つぎに」「くわしく」「かんそう）などを行っています。このような全体での学習は、子どもたちにとても人気です。同じ絵を見て一人ひとりが違う話を発表する、子どもたちの考え方には驚かされます。

1年前は、あいさつも日本語で言えなかった子が、日本に来たばかりの子を助けたりクラスをリードしたりする姿を見ていると、これから彼らの成長が楽しみになります。

こ 子どもプロジェクト

毎週土曜日の3時半から子どもプロジェクトの学習支援が始まります。時間前に来る子どももいれば、遅刻してくる子どももいて、いつもの光景となっています。前の号にも書いていたように、震災のために少しの間、日本を離れた子どもたちもいましたが、夏前にはこの「いつもの光景」が戻ってきました。

夏が過ぎ、秋になりました。この記事を書いているのは11月中旬、中学生3年生はそろそろ受験のことを考え始める時期です。子どもたちとの話の中でも、受験に関係する話題が多くなってきています。多くの子どもたちは公立高校に行きたいと思っていて、そのために5教科（国語・英語・数学・理科・社会）を勉強しなければいけない子もいて、大変なようです。また、慣れない日本語の学習の言葉もたくさん覚えなければいけません。その上、これからは直接の練習もするので、受験生にとっては苦労の時期になります。

私たちボランティアもこれからの時期はよりいっそう気合がはいりますが、ここでは勉強することを押し付けず、教えるよりも、一緒に勉強に取り組むといった姿勢になっています。

受験の話が続きましたが、中学2年生以下の子どもたちは受験など「どこ吹く風」といった感じで、ボランティアを相手に腕相撲をしたがる子もいれば、オセロをしたがる子もあり、ただおしゃべりをしたがる子もいてさまざまです。みんな楽しそうに土曜日の午後を過ごしています（もちろん勉強熱心な子もいます）。

土曜日の学習支援は時期によって雰囲気が変わることもありますが、子どももボランティアもみんな何かをしたいと思、集っています。ここにはボランティアをする大人と子どもたちが二人三脚で前に進む光景があります。

多言語高校進学ガイダンスが開催されました！

10月2日、広尾で秋の「日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス」が開催されました。

6月は震災の影響により、虎ノ門での開催となりましたが、今回は例年通り、広尾のJICA地球ひろばに戻ってきました。

6月に引き続き、震災の影響により参加者数の低迷が予想されましたが、生徒・保護者の参加者は中国50名、フィリピン32名、ミャンマー3名、タイ2名、イラン3名、ブラジル3名、ネパール1名、ペルー2名の計96名・43家族でした。

また、広尾でのガイダンス以降、10月30日に八王子市国際交流協会により八王子で、11月6日にIWC国際市民の会により大井町で行われたガイダンスも無事に終了し、2011年度全6回のガイダンスが無事に終了しました。

各会場の生徒・保護者など、ボランティアを除く参加者数を合計すると、計385名となりました。

来年度の開催予定日は未定ですが、2012年1月以降にまた多文化共生センター東京のホームページ上にてご案内いたします。

今月号から「みんぐる」で紹介した内容を簡単にまとめ 中國語と英語でご紹介することになりました。

从12月的Vol.36「みんぐる」将增添中文和英语简单的内容介绍。

今年秋天多文化举行了很多的活动。9月17号本校学生参加了校外活动。参观索尼技术馆（Panasonic Center TOKYO）体验索尼最新技术，乘坐东京水上巴士游览东京。11月16号还参加了职业体验GAP的一日职员，孩子们互相介绍自己的梦想，欢谈自己的未来。在GAP服装店的一日职员活动，实际体验服装店的一天的流程，店内物品的管理，经营方式等等。这一天的职员活动回校后作总结在大家的面前发表。11月13号在多文化ユースフェスタ的活动时候平时一起学习的同学们还有多文化的毕业生，他们各尽所长，还合力做了一首多文化共生中心之歌。秋天转眼就过去了，要专心开始为考试做准备。学生们，老师们，事务所的职员，志愿者众心协力一起努力。希望大家热烈支持。

From this month on, 'Mingle' is to be summarized to Chinese and English.

In this autumn, there were a lot of events. We went to field trip on Sept. 17th and we went to Panasonic Center where we could experience the latest technology and then cruised to Asakusa. From Nov.15th to 18th, there was a Career Week. All of us talked about our own future and on 16th we had a chance to experience "How To Work" in a store. Afterward we made a presentation about it.

At Youth Festival on Nov 13th, we, students and graduated, played an outstanding role together with our original song of "Tabunka".

Autumn came to an end. Season of entrance examination has come. We, students, teachers, staff and volunteers, will make efforts and cooperation together,

Hoping your constant support to us. Thank You.